

豪雨による浸水対策について



松阪市古井町地内

排水機場について

問

先般の台風21号による豪雨で県内の床上床下浸水は2303棟に達した。排水機場が機能しなかったため、浸水被害が広がったとの報道もあるが、原因は何か。

答

今回の台風は、基準降雨を大きく上回る豪雨であった。

問

近年頻発する豪雨により、農地だけでなく住宅等にも

甚大な被害が発生している。

排水機場の更新整備に係る事業要件の緩和が必要ではないのか。

答

防災力を高める排水対策も必要なことから、関係市町と連携を図りながら、設計基準の緩和等を国に提言していきたい。



松阪市菅生町地内



松阪市高須町地内

勢々川・金剛川の越流対策について



問

潮が満ちてくるのと①金剛川下流の樋門が閉じる。

その結果、金剛川からの逆流を防ぐために、②勢々川の樋門が自動的に閉まる。③行き場のなくなった勢々川の水は、堤防から越流する。この越流水で年に幾度か上流の県道が冠水し、通行できなくなるが、この越流対

策についてどのような考えを持っているのか。

答

排水基準を大幅に上回る降雨に對しては、現在の技術基準で防ぐことは困難。

現在、県内に11の水防災協議会を立ち上げ、浸水被害の軽減などの検討を市町と共に行っている。浸水被害軽減に向け県の役割をしっかりと果していきたい。



松阪市東久保町の大平橋

要望

増水の際に、大平橋にごみが引掛かって、河道を堰き止めている。大平橋上流に計画されている県道松阪

環状線の実現と盛土部分の雑木処理を早急にお願いしたい。

今後の対策を
知事に問う

問

昨今の異常気象にも耐え得る対応や強化が望まれているが、災害から学んだ、今後の対策は。

答

ソフト面は時期出水期までに改善する。合わせて洪水を防止するための排水機場や河川等は、新地震津波行動計画と新風水害行動計画を合体させた計画を年度末までに作る計画である。

意見

県民は、海からの津波におびえ、上流からの浸水におびえながら生活している。安心して暮らせるよう、浸水対策に取り組んでいただきたい。